

Japanese 100 Great Mountains Vol.5: Episode 021-025 (Jp)



(邦題『百名山ピークハント Vol.5: Episode 021-025』)

Originally written in Japanese and translated by Hodaka

Photographs by Hodaka

Cover design by Tanya

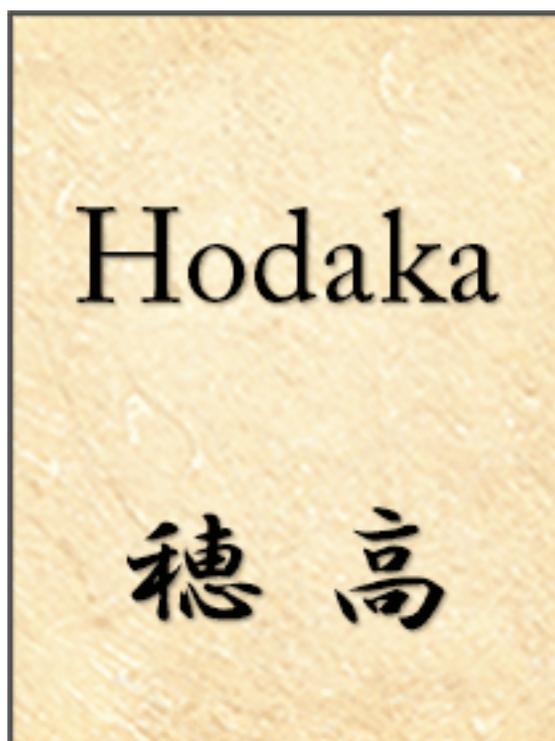
Copyright © 2019 Hodaka / The BBB: Breakthrough Bandwagon Books

All rights reserved.

ISBN: 978-1-79480-943-7



The BBB ウェブサイト (日本語版)
<http://thebbb.net/jp/>



穂高著者ページ

<http://thebbb.net/jp/cast/hodaka.html>

Episode 021: 谷川岳（たにがわだけ）



2019年の初登山は雪山に登るつもりで、登れる候補日の天気と雪の状況を気に掛けていました。1月初旬、東京から近い山梨県の山も候補にしていたのですが、雪がそれほど積もってないようだったので、アクセスが良くて行きやすい谷川岳へ登ることにしました。

谷川岳は2,000mに満たない標高ですが、11月頃からは雪が積もり出し、1月にもなると完全な雪山となります。谷川岳は晴天率の低い山で、過去に何回か登った時には晴天に恵まれなかったのですが、今回は晴天の日が続き当日の予報も良さそうだったので期待できます。

前日の夕方から関越道で群馬県へと向かいました。時間も余裕があったので、目的地手前の前橋辺りでアウトドアのお店へ寄り道をしました。それから、一般道路で赤城山の麓をって向かいました。

夜空も晴れていて、輝く星空を撮影しようと思っていい場所を探していると、眼下に街の夜景を見下ろせるスポットがありました。



畑が広がる道路脇に車を停めて、真っ暗闇の中で何枚か撮りました。
しばらく車を走らせるとコンビニがあり、その駐車場が広くて周囲の明かりも少なかったので、ここでも何枚か撮影しました。さらに少し進んだ別の場所で、街の夜景と星空が撮れるところを見つけて撮りました。
それから、赤城 IC から再び関越道に乗り、赤城高原 SA で車中泊することにしました。エンジンは切るのでエアコンは効かず、かなり冷え込みます。何枚も着込んで寝ましたがそれでも寒く、夜中に何回か目を覚ました。明け方に車を走らせ、5:30 頃にロープウェイの出发点となる谷川ベースプラザへ到着しました。



谷川岳へはロープウェイを利用して登るのが一般的です。そのロープウェイ乗り場となる谷川ベースプラザは6階が乗り場になっていて、他の階は1,000台以上は止められる巨大な立体駐車場となっています。この時間帯は1階のみ駐車可能で、既に何台か駐車してありました。ロープウェイが動くまで時間があるので、ここで再び仮眠しました。

6:30頃、雪山用の服に着替え、登山の準備を始めました。雪山用に膝下につけて雪の侵入を防ぐゲーターを付け、アイゼンはザックの中にしまい、ピッケルをザックの背面に装着しました。

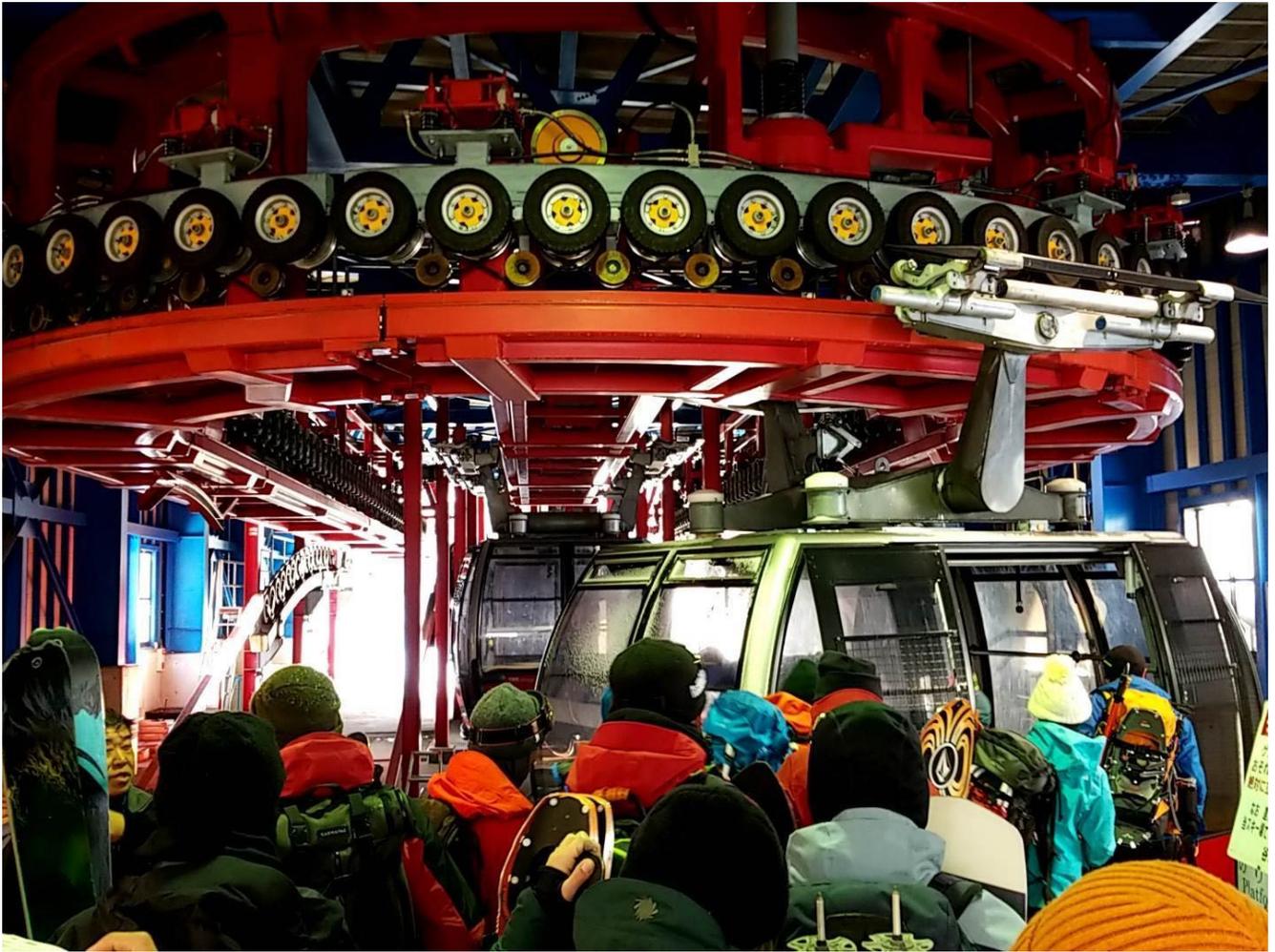
7:00前になると何組かの登山者が動き出したので、自分も後に続きました。ロープウェイが動くのは7時からだと思っていましたが、この時期は8時半からでした。それでも、既にチケット売り場の前には数人のザックが置かれていました。



だいぶ時間があるので、建物の外に出て写真を撮ったり、車で充電をしたり時間をつぶしていると、徐々に長い列が出来てきました。

この谷川岳はロープウェイの終着点の天神平にスキー場がある為、スキー板やボードを持った人たちが目立ち、6-7割ぐらいはスキー客という感じでした。

8:30 前には窓口が開き、早めにチケットを買って、ロープウェイ乗り場へ向かいました。ロープウェイは3分おきに出ていて、10人ぐらいずつ乗って行きます。



天神平へは 15 分程で到着しました。ここには何回か来ていますが、これだけの雪の時期に来たのは初めてで、美しい雪山に見とれて夢中で写真を撮りました。

ロープウェイを降りるとスキー客はリフトへ向かい、登山客はアイゼンを装着したり、雪の上を歩けるワカンやスノーシューを付けて登山の準備をします。自分はワカンやスノーシューを持っていなかったのでアイゼンだけ装着して登り始めました。



雪道のトレースを外れると深く足が埋まってしまうので、出来るだけ靴跡で踏み固められた雪の上を歩いていきます。人がひとり通れる程のトレースが続くなかで、10人以上のパーティーもあり、まるでアリの行列のように続いて渋滞となる箇所もありました。天気も良く風もほとんどなかったなので、登っているとすぐに暑くなり、服の調節をしながら登っていきます。



周囲の雪山の景色が美しく、つい何枚も写真を撮りながらゆっくり登って行きました。しばらくして、少し傾斜のある斜面にさしかかり青空を背景にした広大な雪山を眺めながら登っていると、ふとこの光景に懐かしさを感じました。それは山に興味を持つきっかけになった風景を思い出したからと気付きました。

小学生の頃、ある夏の日にふと見上げた青空に浮かぶ白い入道雲が雪山に見えて、いつかあんな場所を登ってみたいと思ったことがありました。

そして、今見ている光景がまさにその時に見た空と雲と重なり、急にその時の記憶にフラッシュバックしました。あのときの空の風景は今でもはっきり覚えていて、今登っている景色を見ながら「ああ、これだったんだ」と、この景色が見たくて山に興味を持ったことを思い出して不思議な感動がありました。



標高が上がると風も強まってきたので、アウターを着て防寒対策をしました。登山道が巨大な急斜面になってくると、ピッケルを雪に刺して登っていきます。ようやく山小屋前の標識が見えました。看板には霧が付着し、風下に流れるように凍り付いていました。山の世界ではよく「エビの尻尾」と呼んでいます。



そして、近くにある山小屋はほとんど雪で埋まっていて、中に入ることも出来ない状態でした。そこから15分程登って行くと「トマの耳」(1,963m)と呼ばれる頂に出ます。谷川岳は、ふたつの山頂が並ぶ双耳峰(そうじほう)と呼ばれる特徴のある山の形をしていて、その先にもう一つ「オキの耳」(1,977m)と呼ばれる頂があります。

「トマの耳」の山頂標識の上には雪で作った見事なダルマが置かれていました。ここから見える谷川岳の最高峰となる「オキの耳」の山頂はとてもかっこよく聳え立っていて、山頂付近には登山者も多く、ピークの前で列が出来ているようでした。



「トマの耳」から「オキの耳」へは、いったん急な斜面を降りてから、なだらかな斜面を登っていきます。最後の登りは結構きつくて、脚の筋肉が痙攣して思うように登れませんでした。それでもゆっくりと登り、山頂手前まで来ると山頂にはひとりの登山者しかいなくなっていました。ロープウェイの最終時間もあるので早めに下山したのでしょう。

登頂するときは丁度、入れ替わる感じで運よく山頂は独り占めの状態となり、山頂標識の横にピッケルを刺して写真を撮ったり、動画を撮ったりする余裕もありました。他の登山者がいたらこうも出来なかったのでタイミングに恵まれていました。



谷川岳の最高峰を存分に満喫した後は「トマの耳」まで戻り、あまりゆっくりもしてられなかったのですが、かなり脚にきてたのでしばらく休憩しました。すると、背後で急に歓声があがったので振り向くと、3人の外国人がドローンを飛ばしていて、それを見ていた日本人が驚いて、歓声をあげていました。



自分もドローンを見るのは初めてだったので、その輪に加わって見せてもらいました。足元にあったドローンを空高く上昇させると、思わず「うお、カッコいい！」と自分も歓声をあげていました。

しばらくホバリングさせていましたが、操縦するとあっという間に見えなくなる程に飛んでいってしまいました。そして、操縦者が持っている手元のリモコンの画面には、鮮明な雪山の映像が映っていました。こんな山で飛ばして、もし墜落でもしたら回収不能なのによく飛ばせると思いました。

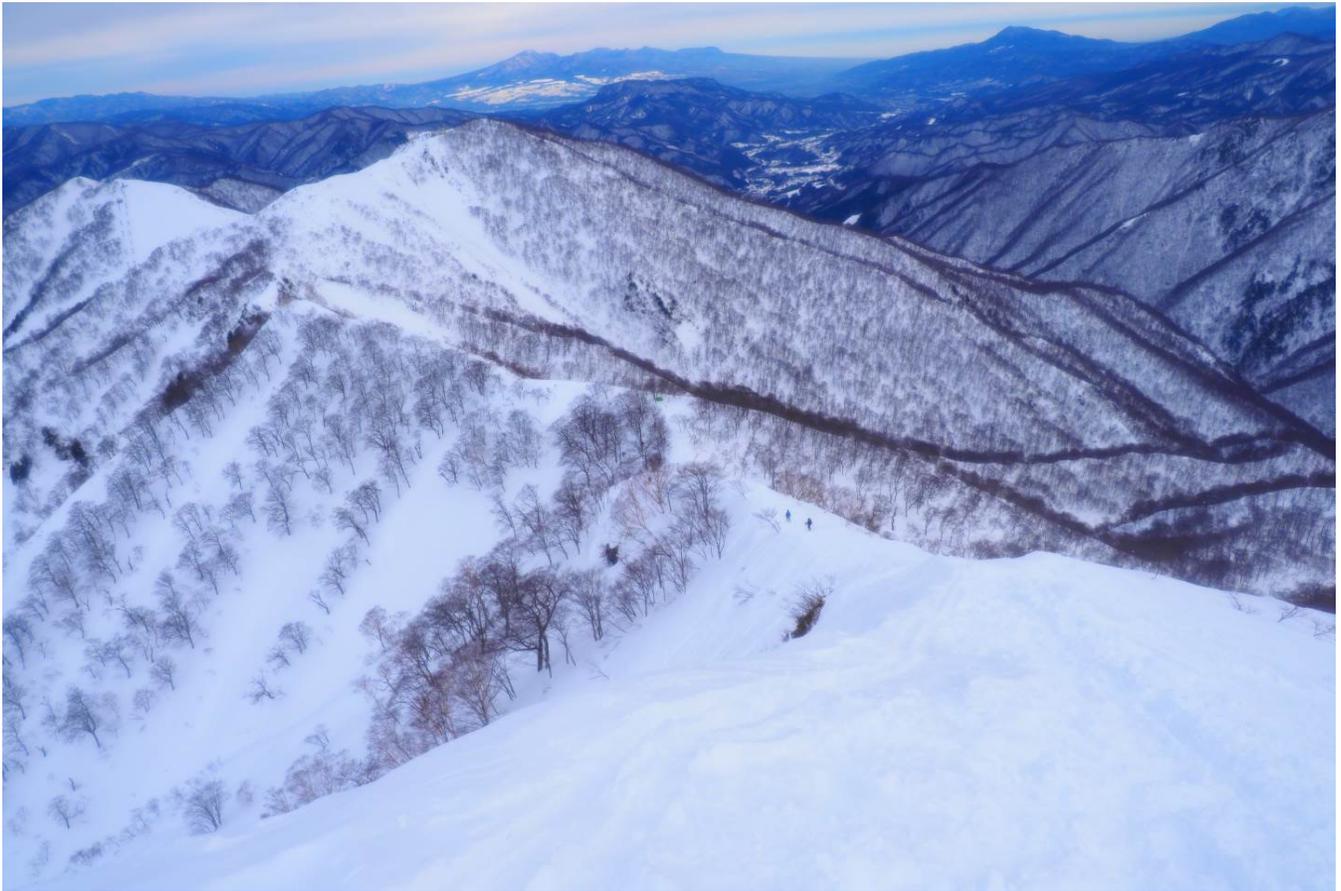
しばらくして、羽の音が聞こえて来たので上空を見るといつの間にかドローンが戻ってきました。そして、上空から山頂にいるみんなと記念写真を撮ってくれました。

ドローンには前から興味ありましたが、こうして実物を見ると自分でも飛ばしたくて尚更欲しくなりました。



もう少し山頂にいたかったのですが、ロープウェイの最終時間あったので下山を急ぎました。下山中にバックカントリーのために来ている人たちとすれ違いました。これから登って、山頂から一気に滑走していくのです。

ドローンを飛ばしていた外国人も広大な雪の斜面を気持ちよさそうに滑って降りてました。あの急斜面を滑り落ちてくるのは相当な技術が必要ですが、滑走している様子は本当に気持ちよさそうで、いつかやってみたいと思いました。



下山中は雲が多くなり薄暗くなってきたので、いいタイミングで登頂できました。無事にロープウェイ乗り場まで戻ってきて、アイゼンを外して付いた雪を落としました。ロープウェイの最終時刻は16:30でしたが、30分程前には乗ることが出来ました。

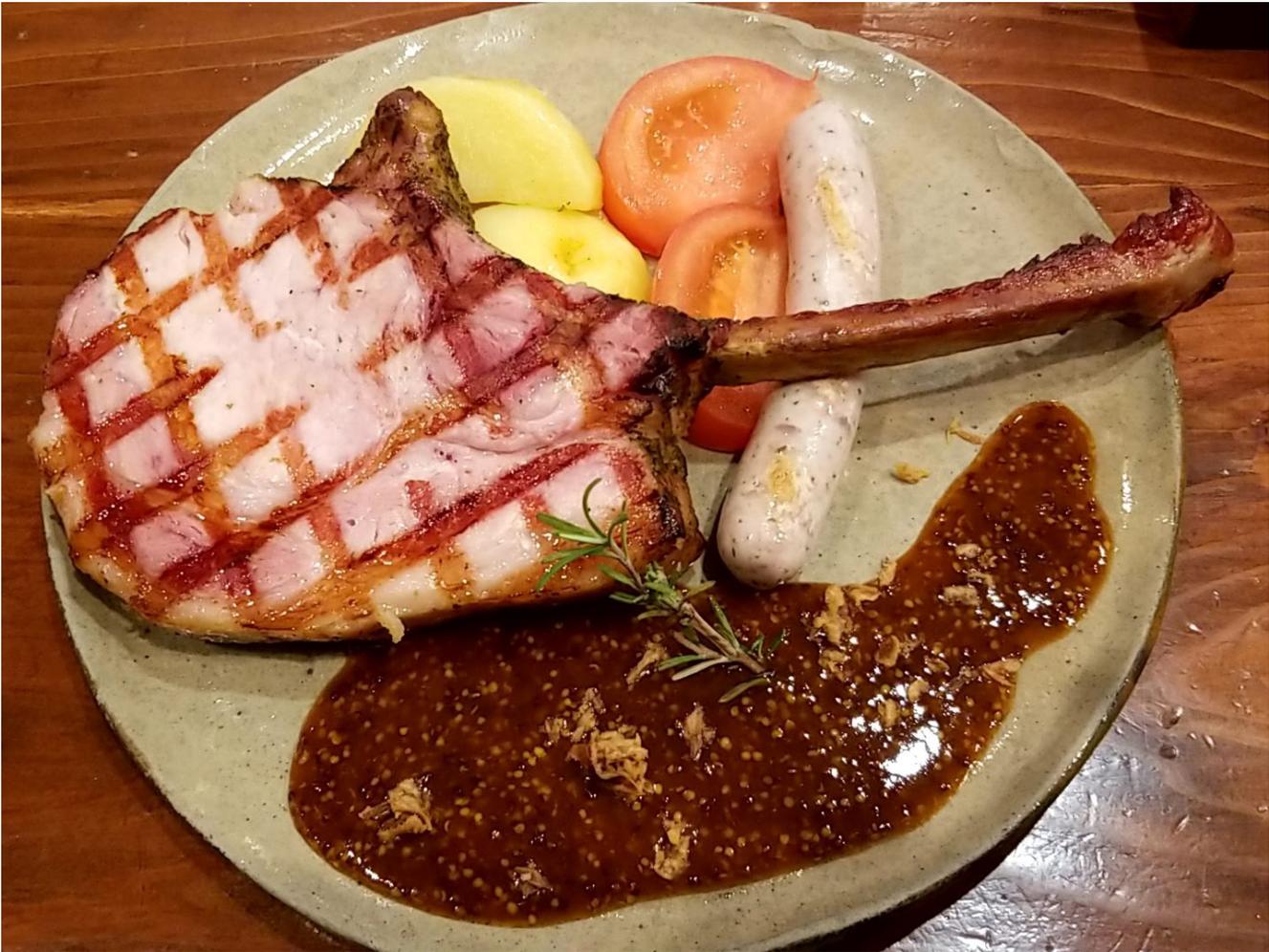
谷川岳ベースプラザに着くとお土産屋もまだやっていたので、無事にピンバッジを買うことが出来ました。

谷川岳に来たら登山後にぜひ寄ってみたいレストランがあり、車に戻ってなるべく早く出発しました。谷川岳に登った人のブログで知ったのですが、肉屋が開いているレストランで、登山後にはぜひ食べたいと思っていました。

谷川岳ベースプラザから20分程でそのレストランに到着すると、17:00のラストオーダー10分前という時間で何とか間に合いました。レンガ風の西洋風の建物で、中は1組のファミリーしかいなかったもので、ゆったりとしていました。



メニューを見ると、どれも美味しそうでした。登山後で、がっつりと肉を食べたい気分だったので、ボリューム満点のリブボーンステーキを頼みました。そして、出てきた骨付きの豪快な肉はナイフがサクサク入る程柔らかく、脂の旨みもしっかりあって大満足の料理でした。雪山の登山は遭難や滑落など危険も伴いますが、装備を揃え、事前にルートや雪の状況などを調査し、天気に恵まれれば、この時期ならではの美しい景色を見られるので、またどこかの雪山に登りたいと思います。



Episode 022: 甲武信ヶ岳（こぶしがたけ）



花粉症の為、春の季節はあまり外出はしたくないのですが、3月下旬に豊かな原生林と水源を擁する名山として知られる甲武信ヶ岳に登ってきました。

一般的には、この時期に花粉が発生しやすい山に行くのは無謀と思えるかもしれませんが、その日に飛ぶスギ花粉は朝日を浴びてから放出されて日中に平野部に舞い降りるので、山間部では早朝でない限り飛散している花粉は少ないと言われています。

また、都会と違って地面に落ちた花粉が再度吹き上げられることはなく、甲武信ヶ岳はこの時期はまだ積雪があり湿度もあるので、花粉が飛びにくいなどの理由から登ることにしました。甲武信ヶ岳は山梨県、埼玉県、長野県の3県にまたがり、日本海に注ぐ信濃川上流の千曲川、太平洋に流れ込む荒川と笛吹川の源流となる山で、奥秩父の要となる存在です。その名前は位置する県の旧国名となる甲斐（山梨）、武蔵（埼玉）、信濃（長野）の頭文字を取ったことに由来しています。2,475mの山頂からの展望は素晴らしく、日本百名山のうち43座が見えると言われています。

起点となる登山口は主に2つあり、比較的距離の短い長野県側からのコースと標準タイムが10時間以上となる山梨県側からの長距離なコースがあります。以前は長野県側からのコースで登ったことがあるので、今回は初めて山梨県側からのコースで登りました。距離が長いので多くのガイドブックでは山小屋で1泊することを薦めていますが、山小屋の営業は4月下旬からで、この時期はまだ営業していないので今回は日帰り登山です。



まだ薄暗い5時頃に登山口となる西沢溪谷入口駐車場に着いて、着替えたりパッキングをして登る準備をしました。快晴の日曜日だったので混んでいるかと思いましたが、駐車場には2台しか停まっていませんでした。

甲武信ヶ岳はこの時期はまだ積雪があり、2日程前の山の様子をインターネットで確認したところ、それ程多くなさそうだったので、6本刃の軽アイゼンを持って行くことにしました。5時半にスタートする頃には数台の車が新たに到着していました。舗装された道を30分程歩いて行くと西沢溪谷と甲武信ヶ岳へ向かう分岐点に出ます。



西沢溪谷は滝や淵が続くトレッキングコースで、軽装でも見事な景色を楽しめるので夏や紅葉の時期は多くの観光客で賑わいます。

甲武信ヶ岳へは「徳ちゃん新道」と呼ばれる登山道を登って行くことになります。この登山道は高低差が1,400m近くもある体力的にきつい登りになります。また、シャクナゲの群生地でもあり、5～6月は見頃です。



急な斜面をゆっくり登っていると、後から来た3組の登山者が追い抜いて行きました。徐々に雪が現れ、凍結している箇所も出てきたので慎重に登っていきます。スタートから2時間半程歩いて、別の登山道との合流地点となり、そこで軽アイゼンを装着しました。

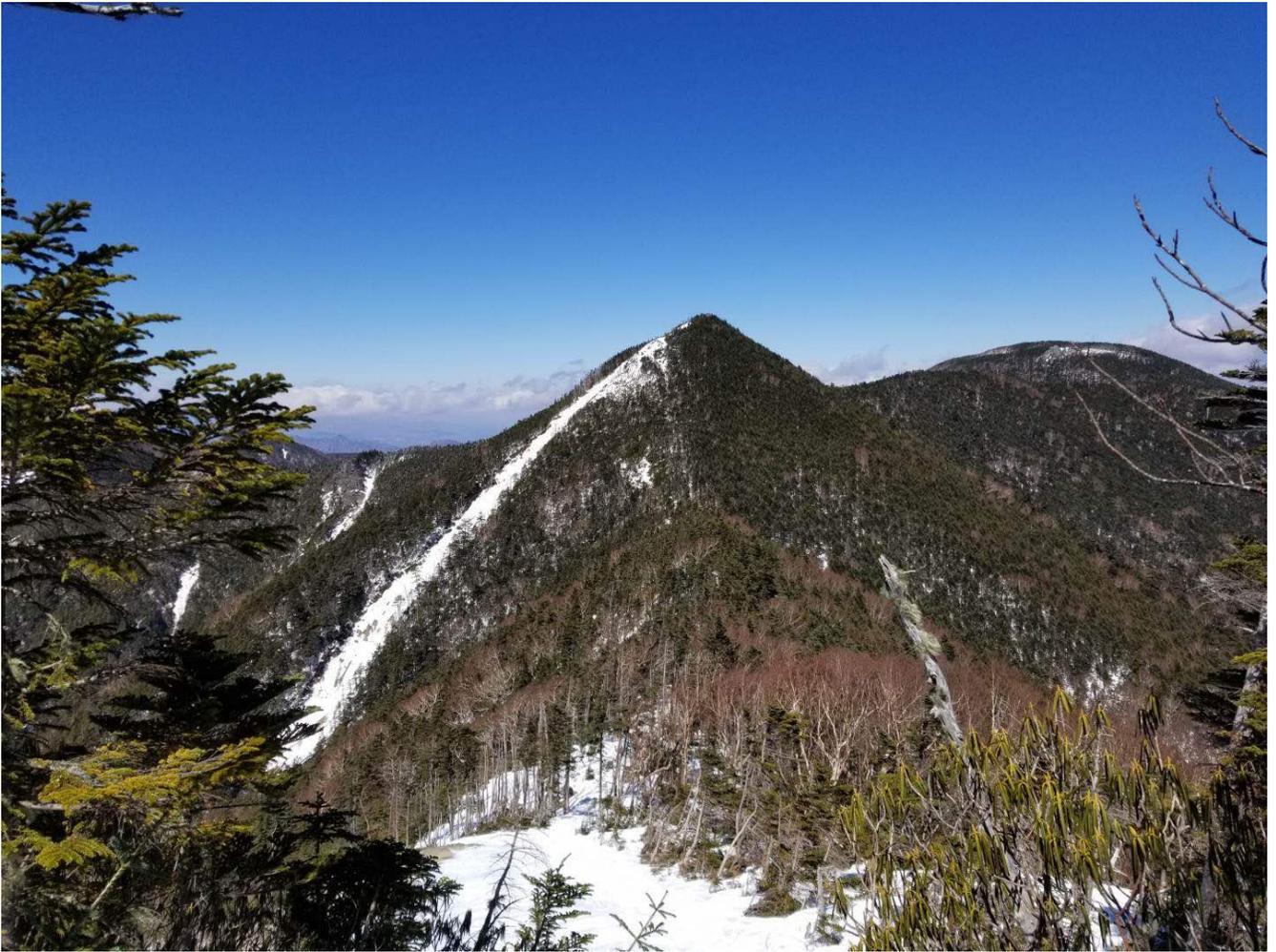


前にいた登山者もそこでアイゼンを付けていて、「路面の凍結がすごいですね」などと言葉を交わしました。そこからは積雪も増えてきましたが、軽アイゼンで問題なく快適に登って行くことが出来ました。途中、樹林帯から抜けた場所に出て振り向くと富士山が綺麗に見えて癒されました。



富士山が綺麗に見える岩場で行動食を食べて小休止しました。しばらく進むと標高 2,469m の木賊山（とくさやま）の山頂標識が現れましたが、ここは見晴らしが良くないので、そのまま通過します。

そして、その先の樹林帯を抜けると視界が開けて、綺麗な円錐型をした甲武信ヶ岳が出現しました。



雪の斜面を一旦下り、再び頂上を目指して登って行くと今は閉鎖している甲武信ヶ岳小屋に着きました。木で出来ている山小屋の文字がユニークです。



頂上の手前、アイゼンを付けたときに会った人が登頂して折り返して降りてくるところで、「今日は登山者は少ないから、今行けば誰もいませんよ」と言われ、しばらく立ち話をしました。頂上はすぐそこにある様子で、しばらく歩くと樹林帯の奥に山頂標識が見えました。今日のよ
うな快晴の天気だと、百名山が43座も見えるのも納得できる程に素晴らしい眺めでした。

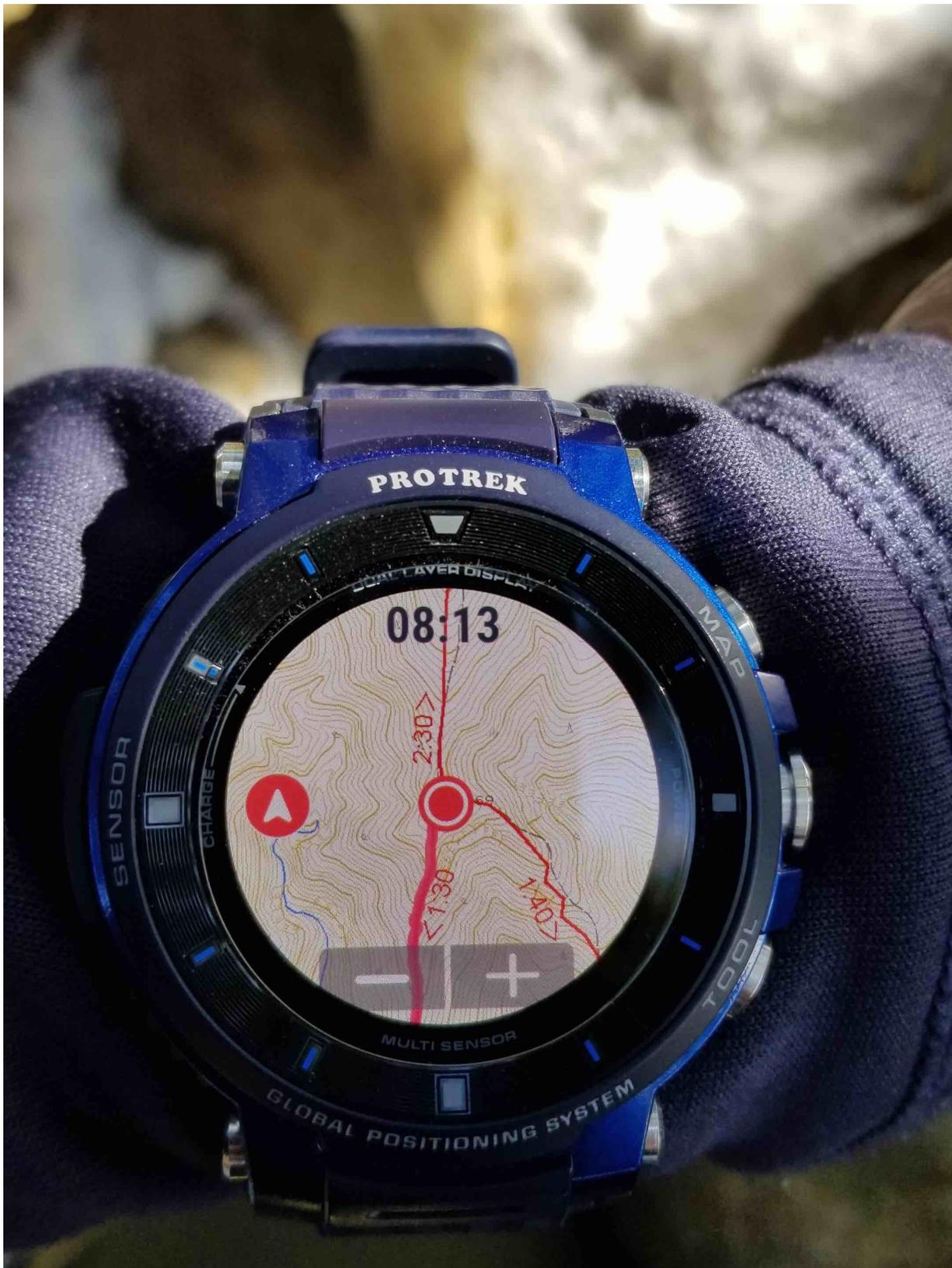


誰もいない山頂を独り占めして写真を撮っていると、自分が登ってきた道とは別の登山道から話し声が聞こえ、男女1組が登ってきました。長野県から来たという2人は家を出た夜中は猛吹雪だったのに、こんなに快晴になったことを驚いていました。2人が登ってきたルートでは登山口から4時間程で到着したそうです。

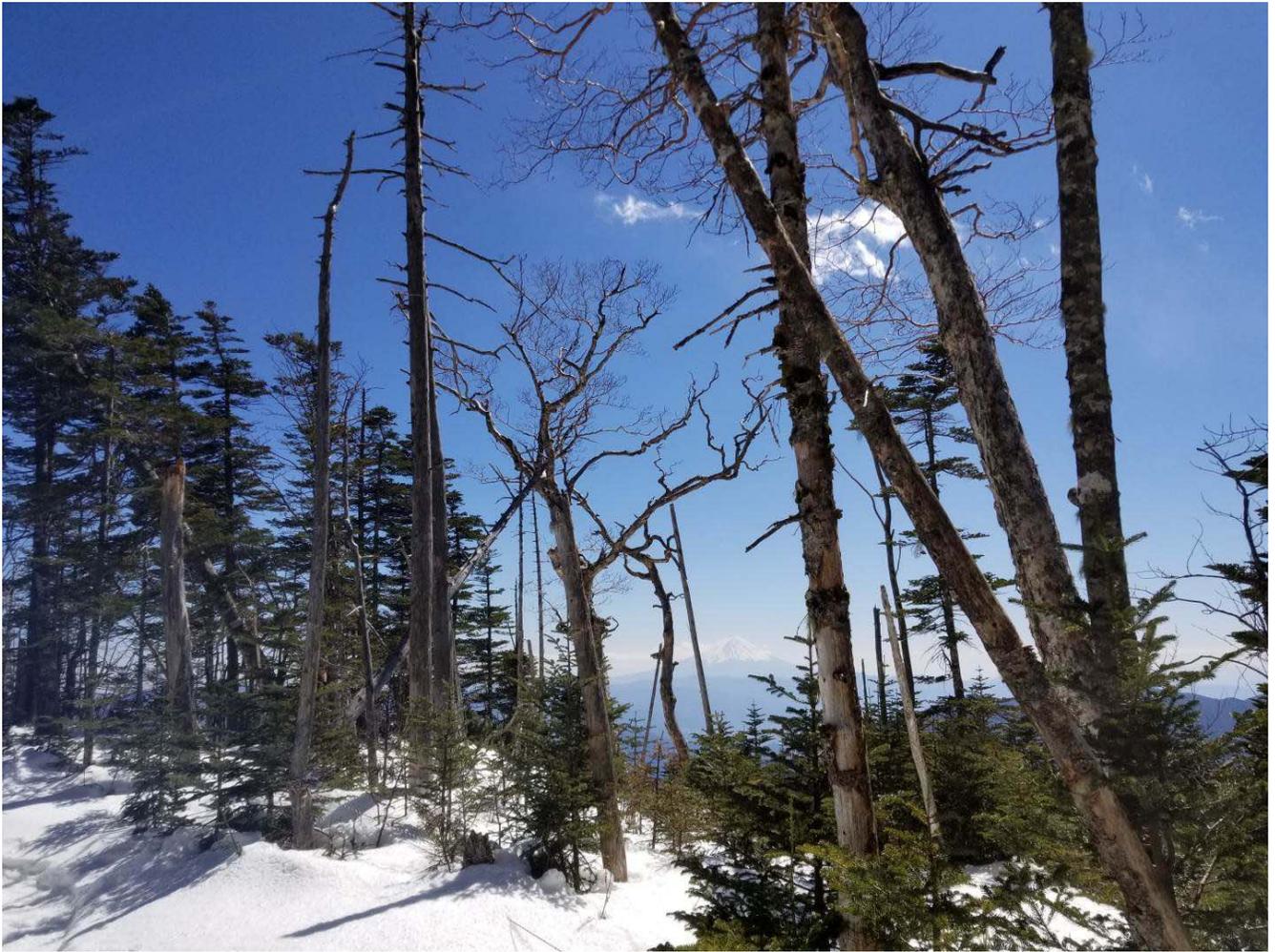
それぞれの登山道の状況や遠くに見える山の名前を話したり、写真を撮り合いました。自分の一眼レフカメラで撮ってもらおうとカメラの話題になり、一眼レフカメラは重くて高価だけど、山には持って行きたくないと話が弾みました。以前、雪山で滑り下りてカメラを紛失した話をしたら爆笑していました。



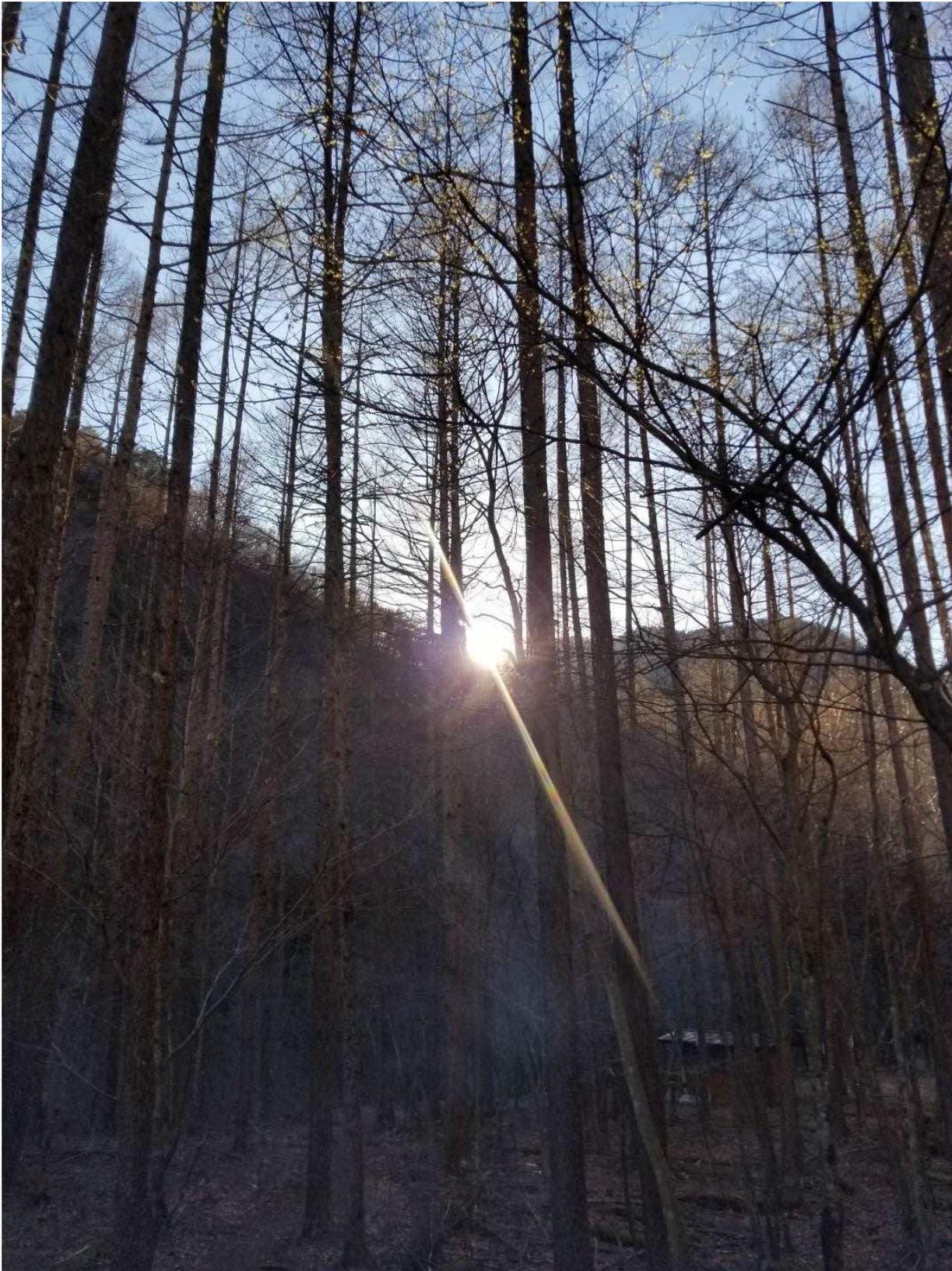
頂上で出くわした登山者との交流で予想外に 20 分程長く滞在して下山しました。今回の登山では、ある新しいギアを試してみました。それは GPS 機能が付いた腕時計で、画面を切り替えるとマップが表示され登山中に現在地が分かるようになっています。登山道はよく整備されていて迷うことはありませんが、今回のような長い距離を歩く場合は、おおよその位置が分かると体力的にも安心です。紙の地図を見てもだいたい現在地は見当がつきますが、歩きながら簡単に正確な現在地が分かるのは非常に便利でした。



凍結している登山道の下山は特に注意する必要があるなので、登りよりも慎重に降りていきます。頂上からの下山中は誰とも会うことなく、ひたすら歩き続けるだけで脚に疲れが溜まっていたのでペースは上がりませんでした。突然、目の前を2頭の鹿がすごい勢いで走り抜けて行きました。疲れて飽きてきた頃だったので、野生の鹿の迫力を見て刺激を受けました。



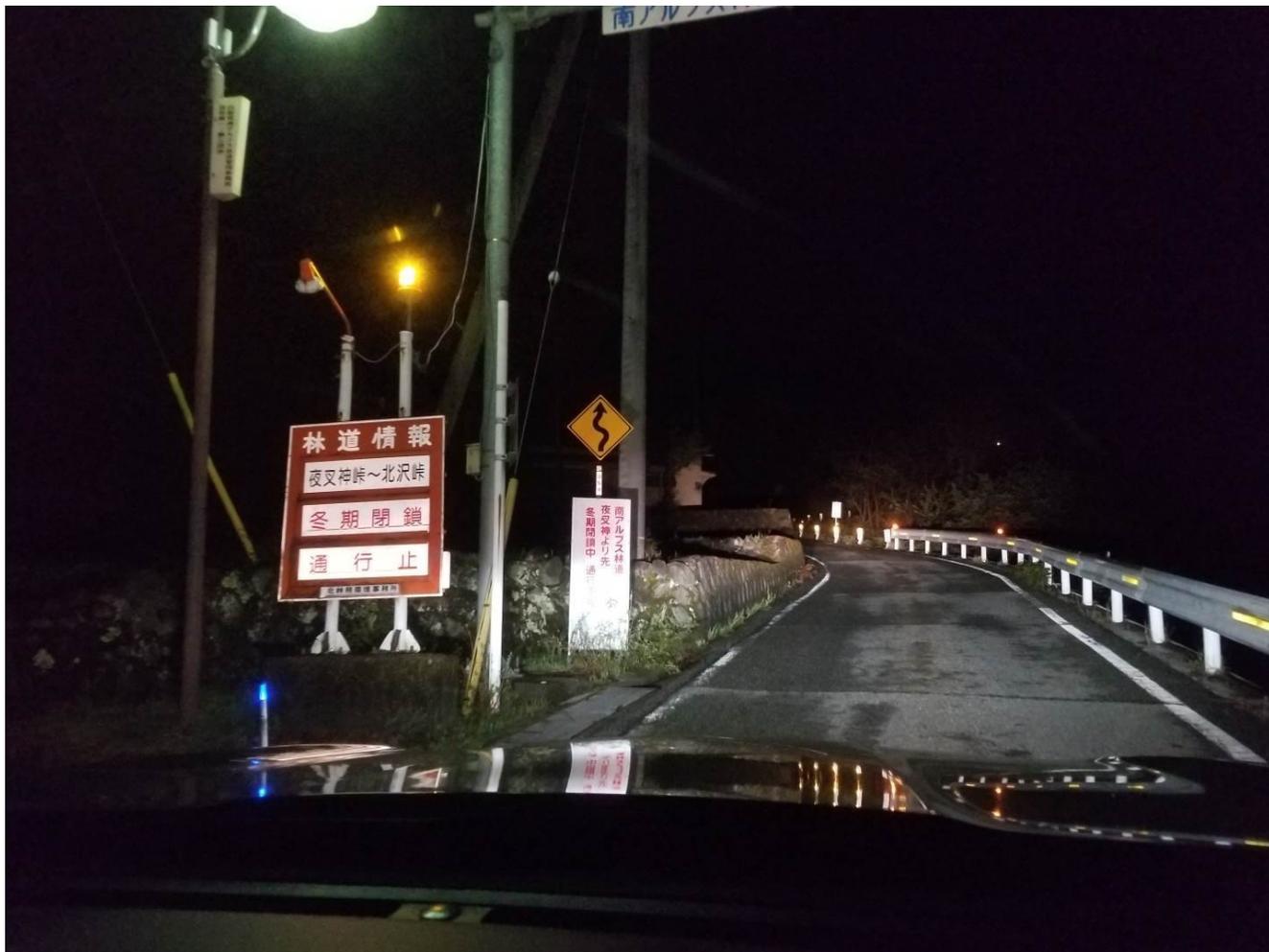
日も落ちかけてきましたが、暗くなる前には駐車場に戻ることが出来ました。
今回は山小屋が閉まっていたのでピンバッジは買えず、帰りに近くにある道の駅に寄りましたが、そこでも売っていなかったなので、また別の機会に買うことになりそうです。



山梨県の郷土料理である「吉田のうどん」は太くてコシの強い麺とキャベツや馬肉の具材が入り、スリダネと言う唐辛子ベースの薬味が特徴で前から食べたいと思っていました。発祥となる富士吉田市には数多くのお店がありますが、帰りの中央自動車道の初狩PAの食堂メニューに「吉田のうどん」があったので、そこで味わって帰路に着きました。



Episode 023: 鳳凰山



元号が「令和」に改元して、初めての登山は南アルプスの鳳凰山に登ってきました。実際には「鳳凰山」という名前の山はなく、地蔵岳(2,764m)、観音岳(2,841m)、薬師岳(2,780m)という3つの山で構成され、「鳳凰三山」という名前で親しまれています。日帰りでは困難なので、山小屋に1泊することにしました。予約する為に電話を掛けると「今年は雪が多いので冬の支度をしっかりとお願いします。男性ひとりの事故が一番多いから気を付けてください」と不吉なことを言われました。



この山に登るのは2回目ですが、前回とは違うルートである夜叉神峠登山口から登りました。南アルプスへのアクセスは公共交通機関を使わないと行きにくいのですが、この夜叉神峠まではマイカーで来られるので、鳳凰山へはアクセスがし易いです。カーブが続く山道を進んだ先が夜叉神峠登山口で、これより先はマイカーは進入禁止になっています。道の両脇に100台程駐車できるスペースがありますが、大型連休の時期で混み具合が心配だったので、余裕を持って夜中の3時半に到着しました。行く途中は雨が降っていましたが、到着すると星空も見える程晴れてきました。仮眠した後、準備して5時半に出発します。少し寝過ぎして予定より30分程遅れました。緩やかな道を1時間程登って行くと夜叉神峠に到着しました。ここは国立公園になっていて、峠からは白峰三山（北岳、間ノ岳、農鳥岳）の眺望が素晴らしく、撮影ポイントとして訪れる人も多い場所です。少し霧に覆われていましたが、しばらくすると霧が晴れてアルプスらしい山々が見えてきました。



そこからは道も急になり、しばらくひとりで登っていると前を行く登山者達が見えてきました。登山道には徐々に雪が現れ始め、凍結している道が続いてきたので、アイゼンを装着して登りました。気温は高く雪道も緩くなりやすいので、トレースを外れないようにします。登り始めて5時間半ほどで南御室（みなみおむろ）小屋に到着して休憩しました。



ここはテント場があるので、外の雪の上にテントを張ってる人が何人かいました。自分が今晚泊まる山小屋は、ここから1時間半程登った薬師岳小屋になります。その小屋には水場がないので、ここでしっかりと水分補給を行います。

青空も見えていましたが、急に雪が降り出して吹雪のようになったかと思うと、しばらくして再び晴れてきました。

目的地の山小屋まで登り始めます。見晴らしの良い稜線に出ると日本で2番目に高い北岳をはじめとする南アルプス北部の山々が一望できるようになり、そこからはしばらくアイゼンを付けたまま岩場を登っていきます。



登り始めて約7時間、岩場から見下ろす感じで薬師岳小屋の屋根が見えてきました。まだ昼過ぎだったので、このまま10分程先にある鳳凰三山のひとつ薬師岳へ登ることにしました。薬師岳の山頂はなだらかで周囲には岩場があり山頂という感じはしませんが、広くて見晴らしが良く非常に居心地のいい場所でした。この先に三山の残りの2つの山がありますが往復で3時間はかかりそうなので、明日登ることにして山小屋でチェックインすることにして引き返しました。



薬師岳小屋は2年ほど前に建て替えられて、80名収容できる綺麗な山小屋に生まれ変わりました。この時期は積雪が多い為、山小屋は雪で埋もれそうなくらいになりますが、入口の前だけ雪を掘って階段になっていました。

アイゼンを外して、階段を下りて受付で手続きをしていると、カウンターで数種類のピンバッジが売られていたので三山が刻まれているものを買いました。

1階が食堂で、2階が広くて綺麗な寝る場所になっています。真ん中にはテーブルがあって寛げるようになっており、山の雑誌や本が充実していました。周囲には一人分のスペースが十分に取れる寝床が確保され、個室のように区切られている寝床もありました。



17時半の夕食まで時間はたっぷりあったので、ひと寝入りしました。しばらくして起きると、途中ですれ違った登山者達が次々とチェックインしてきました。部屋にあった山の漫画などを読んで過ごしていると、17時半に山小屋の主人が階段の下から「夕食の支度が出来ましたよ」と叫んで教えてくれました。

70歳位の3人組の登山者と同じ食卓でした。彼らは2月の厳冬期に富士山に登ったり、トレランで40km走ったりするなど、年齢を感じさせないタフな人達で面白い話が聞けました。食事はおかずがおでんだけで物足りなく、ほとんどの人がご飯をお代わりしていました。テレビの天気予報によると、明日もよく晴れるようで安心しました。山の主人は連休の前半は天気が悪く、昨日は吹雪だったり天候が荒れていたと話していたので、いいタイミングで来られました。



食後、カメラを持って再び薬師岳の山頂に向かいました。日が沈むまではしばらく時間があつたので、じっくりと撮影しながら雄大な景色を楽しみました。風が強くてグローブから指先を出していると、痛くなってくる程の冷たさです。他の宿泊者は頂上まで登ってくる人はいませんでした。



徐々に太陽が山の向こうに沈んでいくと、日中に見た風景とはまた違って、空の色の綺麗な変化が楽しめました。富士山も綺麗に見えていて、日が沈んで雲が赤く染まっていくまでそこにいました。

暗くなり始めると山小屋の方に降り、反対側へ5分程登った砂払岳（すなはらいだけ）へ向かいました。ここからは富士山の麓に広がる甲府盆地の夜景を見ることが出来るのです。

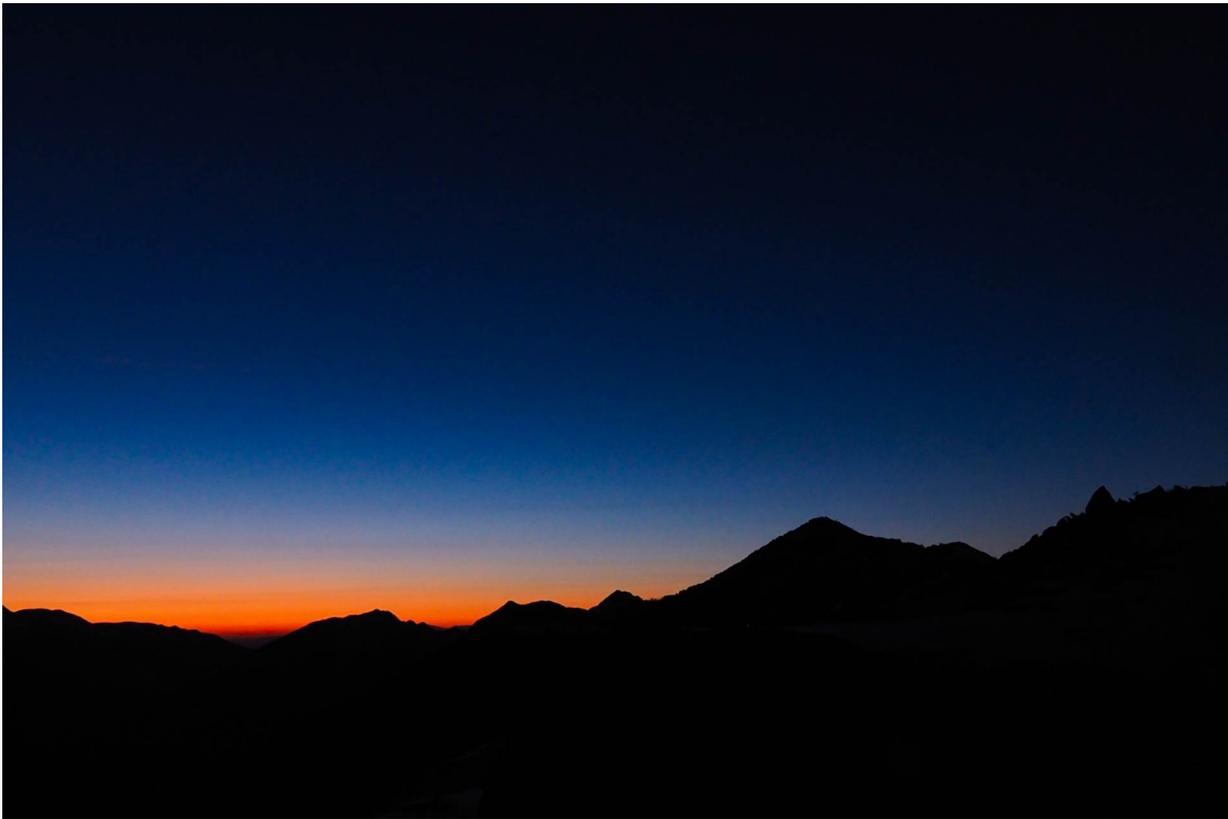
日が沈んで暗くなってくると、徐々に街灯りが灯り、甲府盆地が浮かびあがり、富士山は闇に消えていきました。このような街灯りの夜景を見ると以前、登った丹沢から見た夜景を思い出します（Episode 003 参照）。



19時半頃、山小屋に戻ると食事と一緒にいた3人の年配の登山者達が談話スペースでお酒を飲んでいて、外の様子を聞かれました。話に加わろうかなと思いましたが、星空が綺麗だったので三脚を取って再び外に出て山小屋前のスペースで写真を撮りました。

20時になると山小屋の明かりが消え、辺りは暗闇になりました。20時が山小屋の消灯時間になります。消灯後も外へは自由に出られるので、しばらく星を見てから部屋に戻りました。

ヘッドランプを頼りに静かに部屋に戻ると先ほどの年配の登山者がものすごい鼾（いびき）をかいて寝ていましたが、疲れていたのですぐに眠ることができました。



夜中に何回か起きましたが、ぐっすり寝ることが出来ました。
外が明るくなってきたので山小屋を出ると、ちょうど日が昇る瞬間でした。山小屋の主人が「4時50分が日の出時間なので丁度いいですよ」と教えてくれました。久しぶりに山から御来光を見ましたが、よく晴れていて太陽の右側には富士山も綺麗に見えていました。



5時半から昨日の夕食と同じメンバーで朝食を摂りながら今日の行程などを話しました。自分は昨日登った薬師岳の先にある観音岳と地蔵岳へ登頂して、再び山小屋に戻り、駐車場までの道に戻る行程です。彼らは途中までは同じ行程のようです。薬師岳からしばらく稜線を歩き、40分程先の観音岳の山頂を目指します。鳳凰三山の中でも一番標高が高く、奥の岩場にもスペースがあるので混み合っていました。



ここから地蔵岳への道は急で岩が多いので、慎重に降りていきました。後半はなだらかな稜線を歩き、雪を下って行くと多くの地蔵が祀られているのが見えてきて、地蔵岳の山頂に到着しました。その奥には巨大なオベリスクが空高く垂直に聳え立っています。何人かの登山者はオベリスクに登っていました。自分は以前来たときに登ったので写真だけ撮って引き返すことにしました。



丁度、山小屋で親しくなった年配の登山者も地藏岳に到着したところで、ここでお別れとなるので最後にオベリスクを背景に記念写真を撮りました。山小屋へ泊まるとこうした一期一会があるのも楽しみのひとつです。

帰りは2つの山を越えて山小屋へ戻り、15時過ぎに夜叉神峠登山口の駐車場に到着し、すぐ目の前の夜叉神ヒュッテに日帰り入浴で立ち寄り、さっぱりしてから帰りました。



以前、今回登った夜叉神峠とは別の登山口の青木鉾泉から登ったことがあります。こちらは、夜叉神峠からのルートよりも短時間で登頂できるため人気のあるルートです。その際、駐車場からドンドコ沢に沿って登っていくと、趣の異なる滝が次々と出てくるので急登での疲れを束の間、忘れさせてくれました。鳳凰小屋へ到着したのは、午後の早い時間でした。その時はテントを担いでいたので荷物が重く、すぐにテントを張って休みました。夜は自炊した後、遅くまで周囲を気にせずテントの入り口から星を撮影していました。



前回登山の2日目は、まず地蔵岳を最初に登り、観音岳、薬師岳という順で巡る行程でした。歩きにくい白砂の登山道を進んで行くと地蔵岳の山頂です。名前のように地蔵が祀られています。

昔、子どもを授かりたい女性がこの地蔵を借りて祈願する習わしがあり、子どもを授かったら借りてきた地蔵と新しい地蔵一体をお礼にお返しした、という言い伝えがあります。

この地蔵岳にはシンボルともいえるオベリスクが聳え立っていて、途中までは比較的簡単に登ることが出来るので挑戦しました。なかなかスリルがあって楽しめました。小さな祠があり、神様が祀ってありました。

その後、下山してからインターネットで調べてみると、岩の裏側に隙間があり、そこをくぐって岩の内部からロープなどを使って岩のてっぺんまで登れることを知りました。実際に登った人の記録を見ていると、あんな場所に立てるのが信じられませんでした。



Episode 024: 四阿山（あずまやさん）

奉祝 天皇陛下御即位



男体山登拝大祭

日光祈りの霊山

- 7月31日（午後より）
 - ・ 行人行列・子供みこし・登山踊りコンテスト
 - ・ 午後10時30分より和太鼓「家」による太鼓の奉納
 - ・ 午前0時より男体山登拝開始
- 7月31日～8月1日
 - ・ 登山踊り・奉納花火・大抽選会（8月1日）
- 8月4日
 - ・ 第58回那須の釣弓道大会（当日参加受付）
 - ・ 灯籠流し

●宝物館特別展開催中

日光二荒山神社
NIKKO FUTARASAN JINJA

令和元年
7月31日～8月7日

【期間中 ●夜間登山（午前0時開門）●御内陣参拝】

登山期間：4月25日～11月11日

お問い合わせ：0288-55-0017（中宮祠）・54-0535（本社）
<http://nikko.futarasan.jp>

日光二荒山神社 男体山登拝講社本部
協賛：(公社)栃木県観光物産協会 (一社)日光市観光協会
写真奉納：岩澤 敦美 (FARBERS)

東京から日帰り出来る山もだいぶ限られてきた中、以前登った日光にある男体山（なんたいさん）に行くつもりでいました。

男体山は通常、朝の6時から麓の神社で受付しないと登れないのですが、調べていると毎年8月頃に約1週間だけ登拝大祭という夜中の0時から登れる期間があることが分かりました。前は朝から登ったので、どうせなら今度は夜中に登ろうと思い、今回は男体山は見送りました。代わりに群馬県と長野県の境にある四阿山（あずまやさん）へ登ることにしました。4年前に登ったときは、天気があまり良くなく、下山後に麓のお店が営業していませんでした。この店にはソフトクリームが売られていて、次に来たときは絶対食べたいと思っていました。



四阿山は標高 2,354m で麓には菅平（すがだいら）牧場が広がる雄大な山で、登山道は危険な箇所もありません。のどかな風景を楽しめ日帰りで登頂出来る人気の山です。花の百名山として知られる根子岳（ねこだけ）が隣接していて、二つの山を周遊するのが一般的な登山ルートです。ちなみに、四阿山は読み方が難しく、山に詳しくない人で正しく読める人は少ないかもしれません。



登山口となる菅平高原は標高 1,600m の涼しい場所で、牛が間近に見られて牧歌的な雰囲気を楽しむことができます。

車でのアクセスは良好で、長野市方面からなだらかな坂道を登って行きます。朝の 5 時前には到着し、登山口に一番近い駐車場に停めて、出発する頃にはすっかり明るくなっていました。四阿山と根子岳の分岐点を右に進むと牛たちが出迎えてくれて、見晴らしのいい高原の風景に癒されます。



持っているガイドブックはまず根子岳から登って四阿山から下りるコースを紹介していますが、以前は逆のコースで回り、根子岳の緩やかな斜面を下りてくるのが心地良かったので、今回もそうすることにしました。

上信越高原国立公園

根子岳・四阿山登山道

高山植物を大切に
しましょう！



根子岳、四阿山周辺は上信越高原国立公園に指定されています。
すばらしい自然をいつまでも残していくためには1人1人の協力が
必要です。

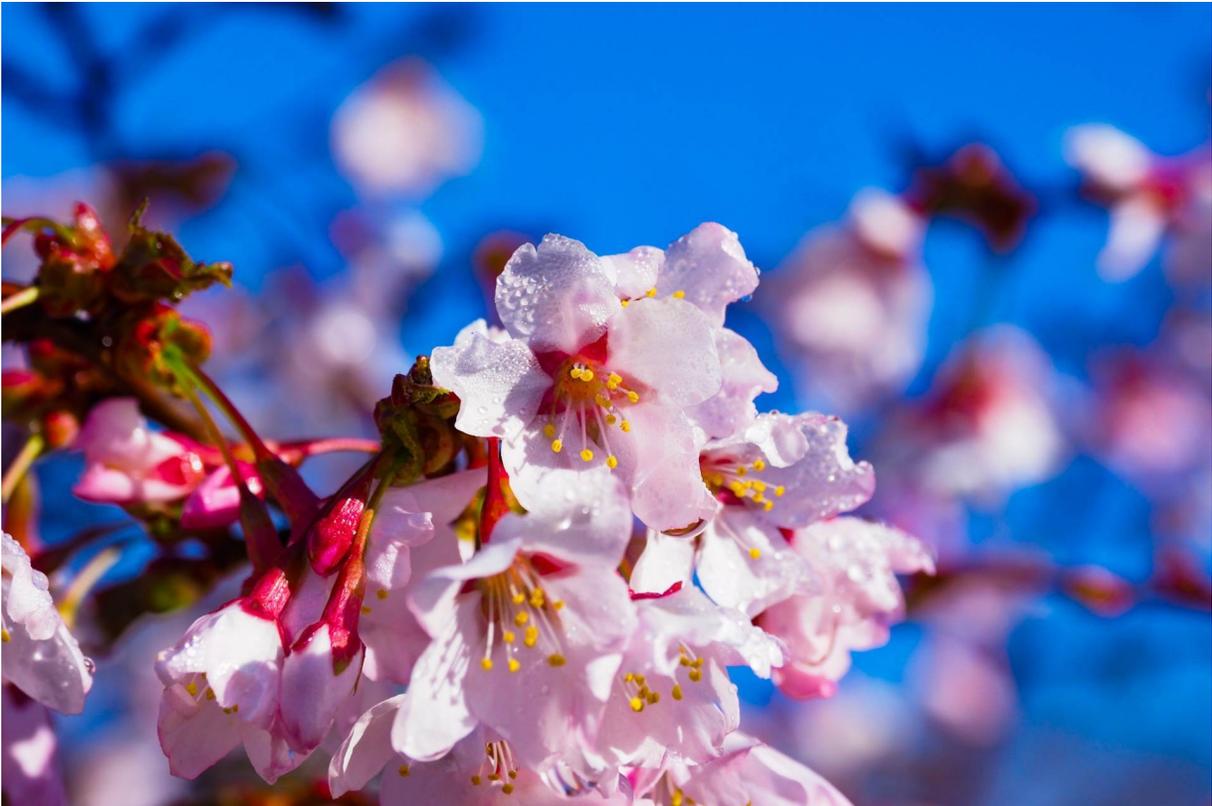
- 草花や昆虫は採らない
(自然公園法により罰せられる場合があります)
- ゴミは持ちかえりましょう
- 火の元には十分注意しましょう

環 境 庁
長 野 県 市
上 田 市

牛の前を通り過ぎて進んで行くと、左側に四阿山の登山口が現れます。事前のネット情報だと少し雪は残っているもののアイゼンは必要なさそうだったので、久しぶりにトレッキングシューズで登りました。最近では雪山用の靴で登ることが多かったのですが、足が軽く感じます。人けのない樹林帯の中を登って行くと、鶯（うぐいす）や野鳥の鳴き声が聞こえ、のどかな雰囲気を楽しめました。登ってきた道を振り返ると長野市街へと続く広大な高原が見渡せます。



所々に花が咲いていて、朝露に濡れた桜を撮っていると、後ろから2人組の登山者が「いいカメラですね」と声を掛けて追い越していきました。これから夏にかけて、もっと多くの花が咲いてきます。



さらに登って行くと、樹林帯の中に雪の斜面が出てきましたが、ネットで得た情報のとおり、アイゼンがなくても特に問題はありません。樹林帯を抜けると、左側に緩やかな下り斜面が続く根子岳の全景が見えてきます。

根子岳と四阿山山頂への分岐点に出ると、根子岳から登って来た登山者と合流することになります。そこから 20 分程登れば、四阿山の頂上です。道はよく整備されていて、木で作られた長い階段が続き、その先に山頂標識が見えてきます。



山頂標識の横には祠があり、青い空に映えていました。前回は曇り空で山頂も霧がかっていたので、良く晴れた今回の登頂はまるで違う雰囲気です。



祠の先へ進むと見晴らしのいい休憩出来るスペースがあり、先に登頂していた登山者達は食事をして休んでいたのので、そこに混ざりました。時刻もまだ9時前で余裕があります。景色を見てくつろぎ、いい時間を過ごした後、次の標高2,207mの根子岳へ向かいます。ちなみに、家に帰ってから前回登ったときの山頂の写真を見ると、祠が代わっていることに気付きました。



根子岳への分岐点まで下りて来ると年配の登山者が分岐点でどちらに行くか躊躇していました。自分の根子岳へ登頂した経験から、「ぜひ根子岳も行った方がいいですよ」と話をすると後からついてきて、「四阿山から登って、来た道に戻ろうかと思ったけど、やっぱり根子岳へ行ってみます」と話しかけてきました。

しばらくは急な山道が続くので慎重に下りていくと峠に出て、なだらかな道が頂上へと続く根子岳が目の前に現れます。



緑の草原と青空のコントラストが美しく、気持ち良く登って行くことが出来ました。
根子岳から四阿山へ向かう登山者とすれ違いながら挨拶を交わし、振り返ると今登ってきた1本の道がずっと四阿山へ続いていて、浅間山で見た風景を思い出しました (Episode 020 参照)。登山道の上の方には大きな岩があり、この岩場を超えると根子岳の頂上にある祠が見えてきます。



根子岳の山頂からは障害物のない大きな空と雄大な景色を見渡すことができます。祠の前には方角とその先にある山が刻んである石碑があり、遥か遠くの北アルプスの山頂が雲の向こうに見えていました。



祠の周囲は広いスペースなので、休む場所には困りません。

写真を撮ったりしてから、10時半頃に下山を始めました。この下山ルートだと正面に広大な景色と登山口近くの牧場を眺めながら気持ち良く下りることが出来ます。この景色以外にも、あちこちに咲いている花を見ながら下りて来られるのも楽しみです。遠足で来ている中学生の集団とすれ違い挨拶を交わしたりして、お昼前には無事に登山口まで下りて来られました。



さて、登山口の横には売店があり、ソフトクリームが売られています。前回は営業時間外でしたが、今回は「営業中」という看板が出ていたので安心しました。

まず、ピンバッジを買って、念願のソフトクリームを注文して店内で食べました。下山後に食べるソフトクリームは格別に美味しかったです。お店のおばあさんと天気の話などをして、生徒の集団と会った話をすると事前に学校から連絡があって、彼らが下りてきたら数十人分ものソフトクリームを作るそうです。



朝はガラガラだった駐車場も登山日和なので、だいぶ埋まっていました。ここは私有地で200円の駐車場代がかかり、早朝は管理人がいないので帰りに払うことになります。牧場が広がるのどかな風景に癒されて、道中見られる様々な花に疲れを忘れ、下山後のソフトクリームも楽しめるので、初心者にお勧めできる百名山のひとつです。



Episode 025: 男体山（なんたいさん）



日光にある男体山には1度登ったことがあります。先日の登山前に調べてみると夏の1週間だけ夜間に登れる期間があることを知りました（Episode 024 参照）そういうわけで2度目の登山はこの期間に登ることにしました。また、8月の日中の猛暑の中を登るよりも夜間の方が登りやすいというのもありました。今年の梅雨明けは例年よりも遅く、日程がなかなか調整出来なかったこともあり、とにかく久々の登山となりました。

夜中の登山に合わせて、早めに到着して駐車場を確保し車で仮眠するつもりで、夕方に家を出発します。群馬県に入ってから運転中に星が見えていたので、天気は大丈夫そうです。途中、渋滞もあって予定より遅れながらも日光へ到着して、いろは坂を超えて中禅寺湖までやってきました。車を停めて中禅寺湖の湖畔に行くと、空は満天の星が輝いていて、ひっそりと静まり返った中でしばらく星の写真を撮りました。



23時に男体山の登山口となる二荒山（ふたらさん）神社に到着しました。既にかなり駐車してありましたが、運良く近い場所に1台分のスペースがあり、そこに停めて登る準備を始めます。0時に登山がスタートするので、この時間に合わせて車も増えてきました。この夜間登山は人気があり、週末にもなると駐車場もすぐに埋まり、登山道も渋滞になるそうです。結局、時間にあまり余裕がなくて仮眠は出来ないまま、途中のSAで30分程休んだだけで登ることになりました。



男体山は782年に勝道（しょうどう）上人（しょうにん）が初登頂したと伝えられ、山自体がご神体とされており、通常は500円の登拝料がかかりますが、夜間登山では1,000円を支払います。受付を済ませるとお守りをくれるので、これを首にかけて登ります。



登山前に 50 人程の登山者が境内の前に集まり、住職からお祓いを受けて、2礼2拍手1礼をしてお参りします。

そして、0時になると太鼓の音と共に一斉に登り始めます。まるで何かの競技のスタートみたいで、このような登り方をするのは初めての事です。



スタート直後から急な石段が続き、岩と草の斜面を登っていきます。夜の山は少し不気味な感じもしますが、周りにこれだけ登山者がいるので安心です。

20分ぐらい経つと、あちこちから、息があがって休憩する人達が出てきます。マイペースに適度に休憩しながら、30分程で広いスペースとなる3合目に到着します。ほとんどの人がここでザックを降ろして一旦ゆっくりと休憩します。



この先は舗装されている車道を歩くので、非常に楽に感じて息も整い、空を見上げる余裕も出てきました。真っ暗な山の木々の間から見える星はとても綺麗です。

40分程歩くと4合目になる鳥居が現れ、再び山道となります。ここからは、これまでより急な岩場が続くので覚悟しながら登り始めます。

あれだけの登山者も各自のペースで登るので、気付くと前後に誰もいなくなり、ひとりで登っていることもあります。自分のヘッドライトだけが頼りで、すぐ手前しか見えずに何度か道を間違えそうになりながらも岩場を登って標高をあげていきます。



男体山は修験道でもあり、登山中に白い衣服を着て木の枝を持った格好をした山伏の方を何人か見ました。その方としばらく近くで一緒に登っていて、祠があると修行の一環なのか、その前でお経を読んで、ホラ貝を吹きます。夜中の山に響きわたるホラ貝の音はミステリアスな雰囲気を作り出していました。

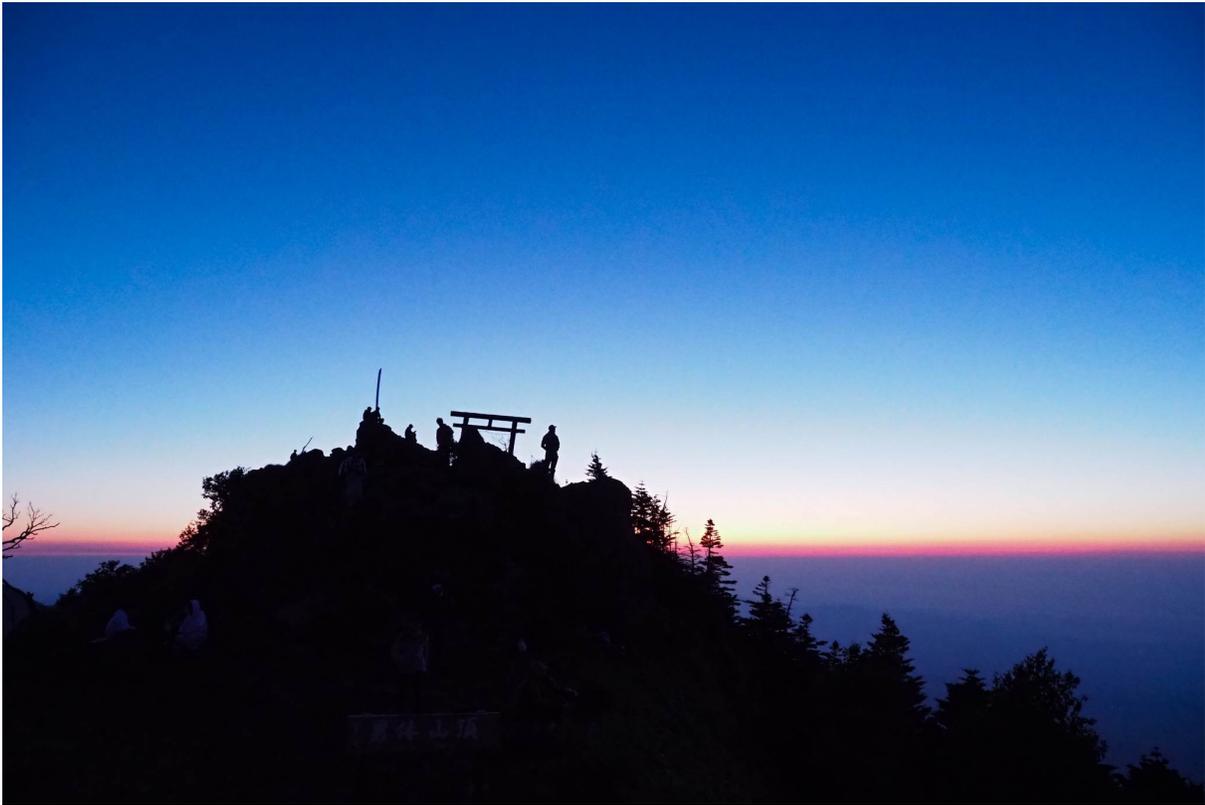
途中で休憩している3人組の年配女性の前を通り過ぎると、いきなり「ザックの重さはどれぐらいですか」と尋ねられました。それほど重くはないですが、ザックが大きく見えたのでしょう。自分もそこで立ち止まり休憩しました。

「星が綺麗ですね」と言うと、「ほんとだ！ 全然空を見る余裕がなかった」と驚いていましたが、この満天の星に気付いてなかったことに、こっちも驚きました。



途中、睡魔が襲ってきて意識が朦朧となりながらもひたすら岩場を登り続けると、森林限界を越えて広い幅の登山道となります。岩場は終わっても、しばらくは登山道が砂利状で登りにくく体力を消耗しますが、一歩ずつゆっくり登っていきます。こうして夜中に登っていると、以前、富士山でご来光を見るのに夜通し登ったことを思い出します。

空が徐々に明るくなってきて、真横にはオリオン座が見えていました。ようやく頂上の鳥居が見えると、周りの登山者からも歓声があがり達成感で満たされました。時刻は4時前、日の出は4時40分頃なので十分に間に合いました。



頂上の鳥居をくぐると売店があるので、まず山頂限定というピンバッジを買いました。その先には開けたスペースがあり、既に登頂した人達のご来光を見るのにいい位置をキープして、お湯を沸かして暖を取ったりしています。その向こうには男体山のシンボルともいえる大きな剣が見えています。



その後も登山者が続々と到着してきましたが、ご来光を見るのには十分なスペースがあります。汗をかいた後で少し冷えてきたので、防寒着を着て日の出を待ちます。男体山の山頂標識の奥には別の鳥居や石碑があり、岩山の上に巨大な剣が存在しています。この剣は約140年前に奉納されて風雨に晒されてきましたが、2012年に折れていることが確認され、ステンレス製の剣に作り替えられました。長さは約3.5mもあり、見応え十分で、この剣の立っている場所が男体山の標高である2,486m地点になります。



ご来光がよく見えるこの位置はかなり混雑していました。下には街の灯が見え、山と山の間に見える流れるような雲が幻想的です。東の空がだいぶ明るくなってきて、いよいよ日の出の時間が近づいてきて、みんなカメラを構えてその瞬間を待ちました。



そして、太陽が雲の上というよりも、雲の間から現れたように見えると、しばらくの間はそこにいる人は言葉もなく、その瞬間を楽しんでいました。

すると、この登拝祭の特有のものなののでしょうか、山頂に「万歳三唱でお祝いしましょう」という放送が流れました。そこにいた全員で万歳を行い、妙な一体感が生まれました。



売店のある反対側に二荒山大神の像が建っていて、ここから下にある中禅寺湖がよく見えます。その中禅寺湖には男体山の大きな影が映っていて、影男体山と呼ばれています。



5時半に山頂を下り始めると、このような道を登ってきたのかと分かりました。特に岩場は改めて急な斜面だったと分かり、もし登るときにこの壁のような岩場が見えていたら精神的にだいぶ堪えていたはずです。暗くて目の前の岩しか見えていなかったから、そこまで辛く感じなかったのかもかもしれません。



2時間半程かけて下山し終わると、ずっと膝を使ってきたので、普通に立っているだけで足がガクガクと震えていました。日帰り温泉に行こうとして調べましたが、近くに朝の時間でやっている所はなさそうなので諦めました。



そして、今回の登山後に寄るつもりでいた群馬県にあるレストランに向かいました。このレストランは食材に拘った自然食のレストランで、以前、八ヶ岳の山小屋で知り合った夫婦が経営しています。

久しぶりに訪れましたが、彼らは元気そうで、数日前に四阿山に登ったそうです。一晩中登り続けてお腹も空いていたので、マスターの料理はさらに美味しく感じました。

このご夫婦はマラソンもする方で、マスターは今年の東京マラソンにも出場して店内にその記録が貼ってありました。そして、自分が来年の東京マラソンに出場するとなると、嬉しそうに様々なアドバイスをしてくれました。

男体山は4月から11月までと登山が可能な期間が決まっていますが、その中でも夏の1週間だけ認められる夜間登山は、非常にいい経験が出来て十分に登る価値のあるものでした。



より多くの写真を添えた登山記録は、以下の著者ブログでお読みいただけます。

<http://hodakaclimber.blog.fc2.com>

(本書は、The BBB: Breakthrough Bandwagon Books のために書き下ろされたオリジナル作品です)

The BBB での穂高著作リスト

JAPANESE 100 GREAT MOUNTAINS
VOL.1: EPISODE 001-005 (JP) HODAKA



百名山ピークハント Vol.1: Episode 001-005
<http://thebbb.net/jp/ebooks/japanese-100-great-mountains-vol1.html>

JAPANESE 100 GREAT MOUNTAINS
VOL.2: EPISODE 006-010 (JP) HODAKA



百名山ピークハント Vol.2: Episode 006-010
<http://thebbb.net/jp/ebooks/japanese-100-great-mountains-vol2.html>

The BBB での穂高著作リスト



百名山ピークハント Vol.3: Episode 011-015
<http://thebbb.net/jp/ebooks/japanese-100-great-mountains-vol3.html>



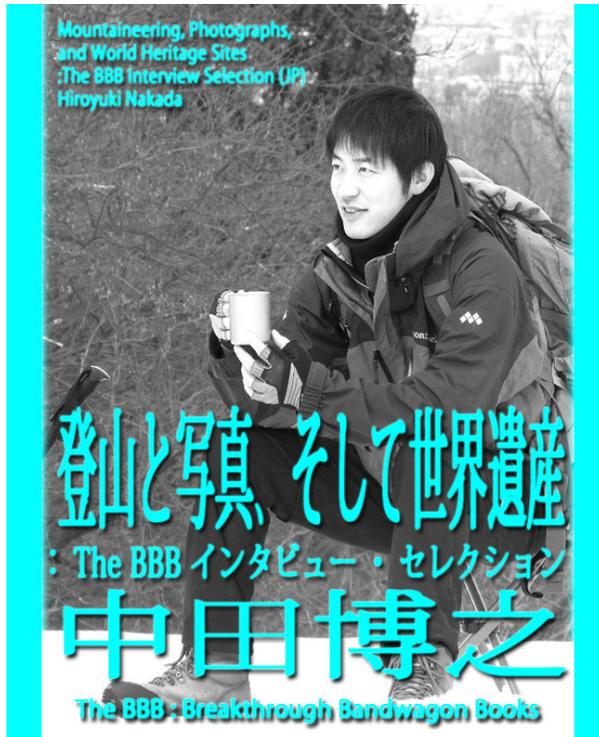
百名山ピークハント Vol.4: Episode 016-020
<http://thebbb.net/jp/ebooks/japanese-100-great-mountains-vol4.html>

The BBB での穂高著作リスト



Cast Party 2018 (Jp)

<http://thebbb.net/jp/ebooks/cast-party-2018.html>



登山と写真、そして世界遺産（中田博之名義）

<http://thebbb.net/jp/ebooks/mountaineering-photographs-and-world-heritage-sites.html>